

わが

観光立市としてブランド力を高め 元気な二本松づくりを進める

城下町 にほんまつ

「あれが阿多多羅山、あの光るのが阿武隈川」と智恵子抄にも詠まれた豊かな自然と、奥州二本松藩10万700石の城下町として歴史と伝統を誇るまち、それが二本松市です。

まちのシンボル二本松城跡は、霞ヶ城県立自然公園の中に所在し市民の憩いの場として親しまれております。城そのものは遠く室町時代に築城され、一昨年で築城600年目を迎えた国指定史跡でもあります。寛永20年(1643年)、織田信長公の下、織田四天王と云われ勇猛で知られた丹羽長秀公の孫に当たる丹羽光重公が10万700石で入封し、城内の石垣などの修築を行うとともに城下町整備を行い、以後、丹羽氏の居城と

して明治維新に至りました。

また、二本松城跡は日本さくら名所100選、日本100名城にも選ばれておりますが、平成27年、世界最大の旅行口コミサイト「トリップアドバイザー」の「口コミで選ぶ 行ってよかった! 日本」の城ランキング2015で、全国第13位にランキングしました。現存天守12城など全国の名だたる城が選ばれている中、県内では唯一のランクインとなり、また関東以北では二本松城跡のほか青森の弘前城がランクインしているのみであります。受賞発表では、二本松藩主丹羽家第18代当主丹羽長聰様からも喜びのお言葉を頂戴したところであります。この素晴らしい城跡は本市の宝であり、市内外に広く情報を発信し、観光交流の本丸としてさらに整備してい

きたいと考えております。

歴史公園への転換と 観光拠点づくり

二本松城跡を有する霞ヶ城県立自然公園には、復元された本丸石垣、箕輪門、茶亭などの歴史的遺構や、江戸時代に作られた安達太良山麓からの約18kmにわたる用水路を巧みに利用し、滝や池を配した回遊式庭園、樹齢350年を超えるイロハカエデや樹冠幅東西約14mの傘マツなど、歴史的価値を有する景観や樹木が多く継承されております。今後も、先人から受け継いだこの歴史遺産を保護し、将来へ継承するため、市民それぞれが二本松城跡の重要性を認識することができ「歴史公園」への転換を進めているところであります。

二本松城跡は中世から近世まで

同一個所で城郭が営まれ、その痕跡が現存する極めて貴重な遺跡であることが最大の特色であるため、この「歴史公園」への転換は、二本松城跡を市民一人一人が貴重な遺跡であることを認識し、自信を持って全国で紹介できる「たからもの」としての意識を大いに育てるものと期待しております。

また、現在「歴史公園」への転換と併せて二本松城跡周辺に二本松城や二本松の歴史を紹介できるような資料の展示、ガイドによる歴史解説、二本松城跡を中心とした市全域の観光情報の発信、そして本市のご当地特産品の販売などを行い得る機能を有した年間を通しての観光拠点となる施設の整備を計画しています。これが本市への注目と関心を高め、市内全域への誘客に波及するよう目指してまいります。

さらなる観光交流を 目指して

「観光立市」を目指す本市は、本



二本松城跡「二本松少年隊群像と箕輪門」

年をインバウンド元年として全力を挙げて取り組み、ブランド力を高めていきたいと考えております。その重点事業として、大型観光企画ふくしまDC(※)の後継として本年4月から6月に本県で展開されるアフターDCでは「桜といえは二本松市！」をテーマに掲げ、台湾からの新たな誘客に取り組みます。

現在、海外から日本への旅行の傾向は、団体旅行で来日した観光客が、インターネットなどで観光地を探して個人旅行をする、いわゆる「FIT」での来日が多いようです。また、全国的に親日的で来日観光客数が安定的に増えてい

る台湾からの誘客を目指す動きが広がっております。これを受け本市では、1日に約200万人が利用するとされる台湾の約5000店舗のセブン・イレブンで本市の映像を大型モニターで流すほか、台湾の人気タレントが出演する旅番組を制作し、4週連続で放送することを計画しております。

さらには、制作した映像を「フォロワー」が10万人以上というトレンドのフェイスブックで発信し、知名度アップを図るとともに、アイドルの所属するユニットによるファンミーティングを本市で開催し、同行ファンを通じて本市の魅力発信につなげる予定であります。

現在、台湾政府は原発事故に伴い、酒類を除き福島県産品の輸入を停止しており、誘客に向けたハードルは高いですが、声高に「安心！」と叫ぶよりも、「来て良かった」と思っていただけることが最大のアピールであると考え、さまざまなことにチャレンジしていきたいと考えております。

結びに

平成27年は、合併10周年・ふくしまDC本番の年でした。市内の

主要な4つの祭りを一堂に集めた「二本松！お祭り三昧！大集合！」などの記念事業を行い、期間中の観光客人込数は前年比24%増となり、県内自治体の中でトップの結果となりました。また新たに「二本松を元気に！新五カ年プラン」を策定しましたので、「人口減少対策」「地域の均衡ある発展」「健

プロフィール

- ◆ 面積 344.42km²
- ◆ 人口 5万7080人
- ◆ 世帯数 1万9705世帯

〔まちの特徴〕西に「智恵子抄」で詠われた安達太良山を擁し、中央の平坦部を阿武隈川が北流、東部には阿武隈山系が連なる風光明媚な自然環境に恵まれたまち

〔市町村合併〕平成17年12月1日、二本松市、安達町、岩代町、東和町が合併して二本松市となる

〔特産品〕清酒、ワイン、農産物(きゅうり、トマト)、菓子、和紙、民・工



二本松市長
新野 洋



芸品(二本松万古焼)、家具(筆筒)、仏壇・仏具

〔観光〕安達太良山、日山、羽山、合戦場のしだれ桜、木幡の大スギ、杉沢の大スギ、霞ヶ城公園、智恵子の生家、岳温泉、塩沢温泉、名目津温泉、安達ヶ原ふるさと村、二本松市大山忠作美術館

〔イベント〕二本松の提灯祭り、二本松の菊人形、小浜の紋付祭り、針道のあばれ山車、木幡の幡祭り、石井の七福神と田植踊、東和ロードレース大会

康寿命の延伸」の3つを最重点事項として、積極的な事業運営を図り、元気な二本松づくりに取り組んでまいります。

※ふくしまDC…ふくしまデスティネーションキャンペーンの略。地元観光関係者と自治体が、JRGグループをはじめ全国の旅行会社などと連携して行う国内最大級の観光キャンペーン。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「夢ふくらみ 安心して暮らせる 元気都市 いせさき」を目指して

はじめに

伊勢崎市は、平成17年の市町村合併、平成19年の特例市への移行を経て20万都市として日々発展を続けています。群馬県の南東部に位置し、前橋市、高崎市、桐生市、太田市、みどり市といった県内の主要都市に囲まれ、その中央部に



世界遺産「田島弥平旧宅」

位置しています。また、市内にはほぼ平坦地であり、南部には利根川が流れ、その支流である広瀬川、粕川、早川、葦川などの河川や沼池があります。

本市は、明治以降、「伊勢崎銘仙」を名産として全国に知られた織物のまちです。現在でも、織物業を支えた建物や大型養蚕農家群が残っており、かつて織物業や養蚕業が盛んであったことをうかがい知ることができます。また、平成26年6月に世界遺産登録された「富岡製糸場と絹産業遺産群」の田島弥平旧宅は、市南部の境島村に位置する近代養蚕農家の原型となった建物であり、多くの観光客が訪れています。

こうしたことから、平成27年3月に策定した第2次伊勢崎市総合計画には、目指すまちの姿となる将来都市像「夢ふくらみ安心して暮らせる 元気都市 いせさき」を定め、世界遺産を活用したまちづくりなど、さまざまな取り組みを推進しているところです。

世界遺産を活用したまちづくり

本市では、世界遺産登録を踏まえたまちづくりを推進するため、田島弥平旧宅のある境島村において地元の方々の協力を得ながらまちづくり推進会議を開催しています。この会議では、平成27年3月に境島村まちづくりビジョンを策定し、同じビジョンに基づいて行政と市民が協働しながら施策を実施しています。

地元の皆さまが観光客にもてなしを行う境島村おもてなし広場もその中の一つであり、田島弥平旧宅から50mの場所に開設されたほっと一休みできる空間は、観光客にも好評をいただいています。また、地元の方々が観光客へのおもてなしを行うことにより、さまざまな地域の方との交流や地域

市内の関連資産との連携

田島弥平旧宅へお越しいただいた観光客には、田島弥平旧宅周辺だけでなく、市内の絹産業に関連する資産を周遊していただきたいと考えています。そこで平成26年度、内閣府が募集していた地域再生計画に、本市が「世界遺産等歴史的資源の活用による地域再生計画」を応募した結果、平成27年3月に認定を受けました。

の中での交流も生まれています。さらに、田島弥平旧宅をはじめとする本市の魅力を多くの方に認知していただけるよう、田島弥平旧宅PRデザイン「くわまる」を活用した情報発信を展開しています。このくわまるは、市の職員が考案した田島弥平旧宅を応援するために生まれた桑の妖精です。平成27年11月に本市や田島弥平旧宅をより積極的にPRするためにくわまるの着ぐるみを製作し、イベントなどでのPR活動を展開しています。



ゆるキャラ「くわまる」を活用したPR活動

地域再生法に基づく地域再生計画の認定制度は、地域が行う地域再生のための自主的・自立的な取り組みを国が総合的かつ効果的に支援するもので、地方公共団体は地域再生計画を作成し、内閣総理大臣の認定を受けることで、地域再生計画に基づく事業に対し特別な支援を活用できるというものです。

今後は、この地域再生計画に基づく取り組みとして、田島弥平旧宅の整備を進めるとともに、かつて蚕の繭の集積や保管などで使用された東武伊勢崎線境町駅前にある境赤レンガ倉庫をまちづくりの拠点として整備するなど、観光客が市内にある関連資産を周遊していただけるような取り組みを推進していきたいと考えています。

本庄市、深谷市の 関連資産との連携

田島弥平旧宅がある境島村は、埼玉県の本庄市や深谷市に隣接しています。両市にも、田島弥平旧宅や絹産業に関連する資産が残っていることから、隣接する両市との連携を図りつつ、観光客の周遊性を高める取り組みを進めていきます。

本庄市内には、かつて繭や生糸を貯蔵するために建てられた旧本庄商業銀行煉瓦倉庫があり、現在、耐震改修工事が進められています。また、深谷市内には、富岡製糸場建設に携わった渋沢栄一の生地や記念館、富岡製糸場初代場長であった尾高惇忠の生家があります。こうした本庄市や深谷市の関連資産については、案内所や駐車場に設置している総合案内板で紹介することにより、観光客が周遊しやすくなるようにしています。

今後は、関連資産を有する本庄市や深谷市との連携をより一層深めることにより観光客の周遊性を高め、より多くの方に満足していただけるよう努めていきたいと考えています。

おわりに

第2次伊勢崎市総合計画に定めた将来都市像「夢ふくらみ安心して暮らせる元気都市 いせさき」の実現に向けて、魅力ある観光の振興を図るためには、観光資源が活用され、市内外の人の交流などにより地域活性化が進むこと、そして市民に地域への誇りと愛着を

持っていたくことが重要であると考えています。今後は、田島弥平旧宅をはじめとする本市の先人が築いた歴史的・文化的遺産を後世に伝えるとともに、関連資産を有する近隣都市とネットワーク化を図ることにより「伊勢崎銘仙」などの織物や養蚕に関する本市の魅力の発信に取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 139.44 km²
- ◆ 人口 21万1698人
- ◆ 世帯数 8万4998世帯

〔将来都市像〕夢ふくらみ安心して暮らせる元気都市 いせさき

〔まちの特徴〕古くから織物の里として栄え、近年は県内有数の産産都市として発展しているまち

〔市町村合併〕平成17年1月1日、伊勢崎市、佐波郡赤堀町、東村、境町による市町村合併により、新しい伊勢崎市が誕生



伊勢崎市長
五十嵐清隆



〔特産品〕伊勢崎銘仙、焼き饅頭、もんじゃ焼き、おつきりこみ、下植木ねぎ、きゅうり、なす、ごぼう

〔観光〕田島弥平旧宅、伊勢崎市華蔵寺公園遊園地、華蔵寺公園、いせさき市民のり公園、いせさき明治館

〔イベント〕いせさき初市、いせさき七夕まつり、いせさきまつり、いせさき花火大会、いせさきイルミネーション

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

泉佐野市（大阪府）

泉佐野市長

千代松大耕

わが

財政健全化団体から脱却した力を バネに未来へ躍進

関空のあるまち

関西国際空港に着陸すると、そこが私たちのまちです。

泉佐野市は大阪府の南部にあり、「関空」と「大阪で唯一の温泉郷犬鳴山温泉」がある人口10万人余りのまちです。

里山に囲まれた美しい景観と懐



臨海部に広がる観光スポット「りんくうタウン」

かしい風景がたくさん残っていないながら、臨海部には、関西でも有数の観光スポット「りんくうタウン」があり、橋を渡ると世界へつながる関空があるという近代的なエリアもあります。アクセス面では、市内にインター

チェンジがある高速道路が3本あるほか、電車で大阪市内へ30分で行けるなど、交通の利便性にも恵まれた暮らしやすいまちです。

歴史とともに歩むまち

犬鳴山は命を懸けて主人を大蛇から守った義犬の伝説から、そう呼ばれるようになったと伝えられています。犬鳴山は修験道の霊場であり、真言宗犬鳴派の本山です。全国から行者が修行に集まり、「行者の滝」では行者が滝に打たれる姿が見られることもあります。この滝行を含む修験体験は本市のふるさと納税のお礼品として注目されています。

本市の公式キャラクターである「一生犬鳴！イヌナキン」は、伝説となった犬鳴山の義犬の末裔で、超自然的な力を得るために犬鳴山

で修業をしています。また、犬鳴山は温泉でも有名であることから、イヌナキンも温泉好きで、常に本市の特産品である泉州タオルを腰に巻いています。

日根荘は、鎌倉時代から戦国時代

代にあった荘園で、日根荘遺跡は全国でも数少ない中世荘園の国史跡として寺社、お堂、ため池など16カ所が指定されています。特に、本市の山間部に位置する大木地区に現在も存在しているため池や水路、農地、寺社堂などは、その多くが中世の日根荘に由来するもので、地域の人々が長い歴史の中でその時代や暮らしの変化に合わせてながら受け継いできました。自然豊かな景観が広がり、歴史の変遷をたどることができる重要な地域で、平成25年10月17日には、「日根荘大木の農村景観」が大坂



市の公式キャラクター「一生犬鳴！イヌナキン」

府初の重要文化的景観（文化庁）に選定されました。

「ええもん」いっぱいのもち

本市には、泉佐野ならではの豊かな自然の恵みから産まれた「ええもん」がたくさんあります。特に、水なす、泉州たまねぎが有名で、江戸時代から栽培されている泉州産の水なすは、全国から高い評価を受けており、甘くて柔らかい泉州たまねぎは、明治時代から栽培されている歴史があります。

また、本市は日本のタオル産業発祥の地でもあり、タオルの国内生産量の2分の1を誇っています。ともに「さの」の名称で、同資本のアウトレットが立地するなど、共通点が多い栃木県佐野市とは、

平成27年11月に「特産品相互取扱協定」を締結し、東西「さの」の「ええもん」を相互にPRしていきます。

おもてなしのまち

本市は、関西国際空港の玄関都市としての地の利を生かし、インバウンド観光の推進に取り組んでいます。日本への玄関口である関西国際空港第2ターミナル国際線到着口に市のアンテナショップである「関空まち処」を開設し、訪日外国旅行者へのホスピタリティの向上および情報発信の強化を図ってきました。しかしながら、国際空港の玄関都市という立地条件でありながら、訪日外国人客の



修験道の霊場として有名な犬鳴山（中央が市長）

急増に伴い、ホテル不足などが課題となっていることもあり、本市が通過都市に陥らないよう、また地域への経済波及効果が薄れないよう、平成27年12月議会において、おもてなし条例（泉佐野市における滞在促進と受け入れ環境の整備に関する条例）を制定し（本年4月1日施行）、積極的に宿泊施設を誘致してまいります。また、観光客の皆さまに本市の魅力をもっと知っていただくため、日曜日、祝日に限り市内観光地を巡る無料の観光周遊バスを平成27年12月から運行を開始させるなど、海外の方へのおもてなし環境を今後も充実させていきます。

未来に躍進するまち

本市は、平成20年度の決算で「連結赤字比率」と「将来負担比率」の2つの指標が早期健全化基準を超えたため「財政健全化団体」となりました。財政健全化法に基づき平成22年2月に「財政健全化計画」を策定し、19年間の掛けて財政健全化団体からの脱却を目指しました。その後、平成22年には12年間に短縮しましたが、飛躍を遂げるための財政措置が打ち出せな

い状況でした。私は、任期の4年間で財政健全化団体から脱却することを公約とし、平成23年に市長に就任しました。就任後、財政健全化のスピードアップを図るため、平成26年度決算において財政健全化団体から脱却することを目標とした「財政健全化実施プラン」を策定し、そして平成25年度決算をもって財政健全化団体からの脱却という大きな目標を達成しま

プロフィール

- ◆ 面積 56・51 km²
- ◆ 人口 10万1134人
- ◆ 世帯数 4万5153世帯

〔将来都市像〕賑わいと歴史ある迎都泉佐野 ― ひとを育み ひとにやさしく―

〔まちの特徴〕高層ホテルやアウトレット、関西国際空港という近代的なまちがある一方、伝統的な風景が残されたまち

〔特産品〕水なす、泉州たまねぎ、タ



泉佐野市長
千代松大耕



オル、泉ダコ、わたりがに
〔観光〕犬鳴山七宝滝寺、犬鳴山温泉、国史跡日根荘遺跡、りんくう公園、泉佐野漁協青空市場、りんくうタウン
〔イベント〕大井関桜まつり、まくら祭り、夏まつり（ふとん太鼓）、ゆ祭り、りんくう花火、泉佐野郷土芸能の集い、ザ・まつり、秋まつり（だんじり、やぐら、担いだんじり）、泉州 YOSAKOI 糸えじゃないか祭り

した。これからも行政運営の基本的な考え方として、「できない」のではなく「どうすればできるか」ということからスタートさせ、次なるステップとして「未来に躍進する泉佐野」を目指し、人口減少化社会にも負けない、「ひとが集い、活力を生むまちづくり」の推進に積極的に実行力をもって取り組んでまいります。

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

新しさの中に懐かしさが感じられる 笑顔あふれるまちづくり

はじめに

鹿児島県の西北部に位置する阿久根市は、古くから漁業のまちとして栄え、東は紫尾山系、西は東シナ海に囲まれており、東シナ海に沈む夕日と目の前に点在する美しい島影が醸し出す癒しの空間



“迎賓館”“公民館”としての機能を持つ「にぎわい交流館阿久根駅」

は、見る人の心を和ませます場所として広く県内外に知られておりまして。また、北部に位置する急潮として名高い黒之瀬戸は、長田王、大伴旅人により万葉集にも詠まれ、阿久根沖に漂着した中国船から伝わったとされる文旦（ボンタシ）は阿久根の代表的な特産品になるなど、文化・産業ともに海の恩恵を受けながらはぐくまれてきた自然豊かなまちであります。そのような風土を基本とする本市ですが、少子高齢化や地域の経済を支えていた水産業の不振により、水揚げ額が大幅に落ち込むなど、地域経済の疲弊は進む一方でありました。そうした中、追い打ちを掛けるように九州新幹線の整備に伴い、平成16年に鹿児島本線川内～八代間がJR九州から経営分離され、鹿児島・熊本両県の沿

線自治体を株主とする肥薩おれんじ鉄道が開業することとなりましたが、利用者の減少などから経営が厳しい状況となっております。そして、新幹線の停車駅もなく、また南九州西回り自動車道の整備においても薩摩川内～阿久根間において備計画は白紙のまま、地域の活力が衰微していく中で地元の活性化が大きな課題となりました。

駅を起点ににぎわいを

本市においては、厳しい財政状況の改善を図るため、平成8年度からさまざまな改革を実施し、行財政の健全化に努め、ようやく各種事業を展開できる状況になってきました。そうした中、観光の拠点ともいえるべき施設を起点ににぎわいをつくり出したいとの思いから、県の事業を活用して平成25

地域の資源を生かす

本市には、昭和26年から60年以上続く「華の50歳組」という伝統行事があります。これは50歳という節目の年に母校の小学校の運動

会に参加するのを機会に同窓生が一堂に会し、お互いの無事を喜び、亡師・亡友の慰霊を行うとともに、童心に返って競技に参加して旧交を温め、連帯感を深める同窓会として市を挙げて行う慣習となっています。驚くことに、卒業生のおよそ3分の2の方がこの「華の50歳組」のために全国各地から帰郷するのです。この「華の50歳組」は、進学や就職などでいったんふるさとを離れた方々が、わがふるさとを改めて見直し、自分が生まれ育ったまちに誇りを持てる取り組みとして、今後の地方創生の中でもキーワードになるのではないかと思わせる伝統行事となっています。

このようなことから、今の地方に必要なことは、古くから根付く地域の資源は外から見ると大変な価値があることを再認識することではないかと私は考えています。例えば、本市には、季節ごとに水揚げされる旬の魚や水産加工品、ポンタン、



童心に返る「華の50歳組」

大将^{だいまさき}季、紅甘夏といった柑橘類、毎年10月に出荷が始まるタケノコ、有害鳥獣を捕獲して加工するジビエ料理、A5ランクの華鶴和牛などさまざまな特産品や農産品があり、併せてそういった産物を育む風土豊かな自然環境に囲まれています。しかし、この価値について地元の人たちは当たり前だと思っただけで、他所の方から見ると、価値の高いものがたくさんあることに驚かれることが多々あります。そこで、そのような地域資源の価値を自分たちで再認識し、映像言語で情報運用できる人材を育てる、地域メディアプロデューサー育成講座を実施し、人材育成に取り組み各分野で成果を上げていきます。

「笑顔あふれるまちづくり」を目指して

平成26年7月、これまで整備計画が遅れていた南九州西回り自動車道の阿久根・川内道路の都市計画決定、さらに、平成27年4月には新規事業化が決定されました。このことにより、これまで取り残されてきたように思えたこの地域もようやく高速交通体系の到来を間近に感じさせる環境が整備され、交流人口の増加、搬送時間短

プロフィール

- ◆ 面積 134・28 km²
- ◆ 人口 2万1947人
- ◆ 世帯数 1万419世帯

〔将来都市像〕 自然と人が共生するまち
 〔まちの特徴〕 温暖な気候と豊かな海に育まれた良質な食材が揃う食のまち
 〔特産品〕 文旦、大将季、紅甘夏、文旦漬、タカエビ、ウニ、塩干加工品、



阿久根市長
西平良将



グローブ、焼酎、タケノコ、実えんどう、黒毛和牛
 〔観光〕 黒之瀬戸、阿久根大島、牛之浜海岸、にぎわい交流館阿久根駅、肥薩おれんじ鉄道
 〔イベント〕 阿久根みどり祭り、あくねポンタンロードレース大会、阿久根はな・HANA・華まつり、あくね新鮮おさかな祭り

縮による新鮮な食材の提供も可能となるなど、明るい兆しも見られます。
 今、本市では、多くの人たちが安心して子育てができ、お年寄りも元気に過ごせる「笑顔あふれるまちづくり」を目指しています。住んでいる人も訪れた人もみんなが笑顔になれるような、ここできか味わえない「あくね時間」の創出を目指して市民一丸となり、新しさの中にどこか懐かしさのある阿久根市をつくってまいります。

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。